



決意(光秀・愛宕山連歌の会)
2000年
縦161.2cm×横260.0cm
(画像提供 美術年鑑社)

麒麟がくる世の中に。今まさに、平和な日常が求められています。そんな中、歴史人物画家の内田青虹さんから、明智光秀とその妻 照子を、題材にした絵画作品二点を新たに市へ寄贈していただきました。

新しい生活様式が求められ外出の仕方も変わり、文化・芸術に触れる機会も少なくなっているのではないのでしょうか。

今回は、紙面で紹介する絵画作品を通して文化・芸術に触れ、ひとときの癒しをお楽しみください。

作品介绍

本能寺の変の直前に、愛宕山で明智光秀が開いた連歌会の様子が描かれています。この連歌会(愛宕百韻)には、当時有名だった連歌師の里村紹巴らが参加しました。

— 光秀の詠んだ句 —
時は今 あめが下なる
五月哉 光秀

内田青虹さんより

この作品は、連歌の会で光秀が苦悩の中、これから興すべき行動を自らの連歌に表明して決意する場面を描きました。

時は今の「とき」は、土岐一族に通ずるこの「時」こそ領地領民のために、あるいは土岐一族を護るため、この国のために決意をする、命をかけての決意であったと思います。

作品左上の桔梗紋から一筋の金線を放つ瞬間を光秀自身の決意として描きました。